

介助者が足りないそうなる
前に考えておきたいこと

介助サービス委員会

岡田健司（CILアクスペ）

①介助派遣をはじめた理由

そもそも介助派遣をすることは
二の次だった

エンパワメントがないとやって
いけない

エンパワメント力がためされる
もの

さあ、それを試そう

試したとき、試したあと、ずっと
エンパワメントしつづける

②介助派遣の理念と仕組み

私とあなた、の

権利保障と生活保障

理念それは、私とあなたが心がけていけば良いもの

お恥ずかしながら

だから、三人なのです

その三人の、権利保障と生活保障
こそがアクスぺ存続のかなめ

スタッフたちの権利保障と生活保障
のかなめ、でもあります

よい意味でも、わるい意味でも、
少数精鋭

自分たちで見つけて、自分たち
で伝えて、なれ親しんだ間柄

ではあるけれど、人がいない

人をあつめる努力をしてみても報われなないことがあります

努力不足とって自分を責める
ことあるけれど

忘れたくはない

自分の権利保障と生活保障

他事業所を利用してでも、その保障はくずさない

③人がやめていった事例

やめていく事例は多種多様で
はあります

そのなかでも注目したいこと

腰痛や鬱^{椎木}らしき、ものを遠因と
する

人間関係が近因でやめる事例

3つのこと

言語的・非言語的なハラスメント

無関心からくるすれ違い

依存度が高すぎる

④人がやめていった事例の^{おしえ}教訓

言語的・非言語的なハラスメント

他者に対する発言・行動などが本人の意図に関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与えること

||

みんな得意図して気づきあう

無関心からくるすれ違い

||

なにに関心を示せば良いかを
あきらかにする

依存度が高すぎる

||

管理されない心ではなく、管理
しあう心をやしなう